

イオパミドールを用いた消化管造影検査を受ける患者さんへ

当院では、消化管穿孔、縫合不全、狭窄、閉塞等が疑われる患者さんに対して、診断目的で消化管造影検査を実施しています。

従来はガストログラフィン®を使用してきましたが、供給の不安定な状況が続いているため、代替造影剤としてイオパミドールを使用した検査を実施しています。

イオパミドールの消化管投与は国内では承認されていない方法ですが、海外では同様の目的で広く使用されており、一定の有効性と安全性が報告されています。この検査を行うことは当院の倫理委員会で承認されています。

【使用する医薬品について】

イオパミドール（製品名：イオパミドール 300 注「F」）

イオパミドールは、日本国内では主に血管造影、CT 検査、尿路造影などの検査に広く使用されている非イオン性ヨード造影剤です。（国内では経口投与は承認されていません。）

【使用方法】

検査目的に応じて適切な濃度に調整したイオパミドールを、経口または消化管内へ投与し、X 線透視や撮影を行います。

消化管造影検査は国内添付文書上の適応には含まれていないため、本使用は適応外使用に該当します。

海外では消化管穿孔や縫合不全が疑われる症例に対する水溶性造影剤として使用実績があり、その有効性および安全性について一定の知見が蓄積されています。

一般に医薬品は、添付文書（薬の使用説明書）に記載されている用法・用量および使用上の注意に従って使用されます。しかし、一部の医薬品は、添付文書に記載されていない方法で使用する場合があります、これを「適応外使用」と言います。

そのため、消化管造影検査における本剤の使用は「適応外使用」となります。

【副作用】

イオパミドールは長年使用されている造影剤ですが、以下のような副作用が起こる可能性があります。

- ・下痢
- ・吐き気、嘔吐
- ・腹痛、腹部不快感
- ・誤嚥および肺合併症

さらにヨード造影剤であるため以下の過敏反応が起こる可能性があります。

- ・吐き気、嘔吐
- ・発疹、かゆみ
- ・じんましん
- ・血圧低下
- ・呼吸困難
- ・アナフィラキシーショック（重篤なアレルギー反応）

消化管投与時には重篤な副作用の頻度は低いものの、まれに生命に関わることがあります。また、この検査に伴う副作用について、国の副作用被害救済制度の対象とならない場合がありますので、ご了承ください。

【注意点】

- ・過去にヨード造影剤で副作用が出たことがある方は、必ず担当医にお申し出ください。
- ・気管支喘息や他の薬剤で重いアレルギー歴がある方は、副作用が起こりやすい場合があります。
- ・腎機能が低下している方では、検査前後の管理が必要になる場合があります。
- ・検査中や検査後に気分不良、発疹、呼吸苦などが生じた場合は、直ちに医療スタッフへお知らせください。

【治療費】

本検査に伴う費用は通常の診療費として取り扱われます。

副作用や合併症が発生した場合は、最善の治療を行います。そのため、入院あるいは入院期間の延長、緊急の処置が必要になることがあります。その際の費用は通常の診療費と同様に扱います。

ご質問がございましたら、担当の医師、看護師、薬剤師までお尋ねください。

津島市民病院
津島市橘町3丁目73番地
TEL 0567-28-5151